

東北地方 1か月予報

(2月11日から3月10日までの天候見通し)

平成18年2月10日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

東北日本海側では記録的な積雪となっている所もありますので、気温の高い日の融雪やなだれに注意してください。

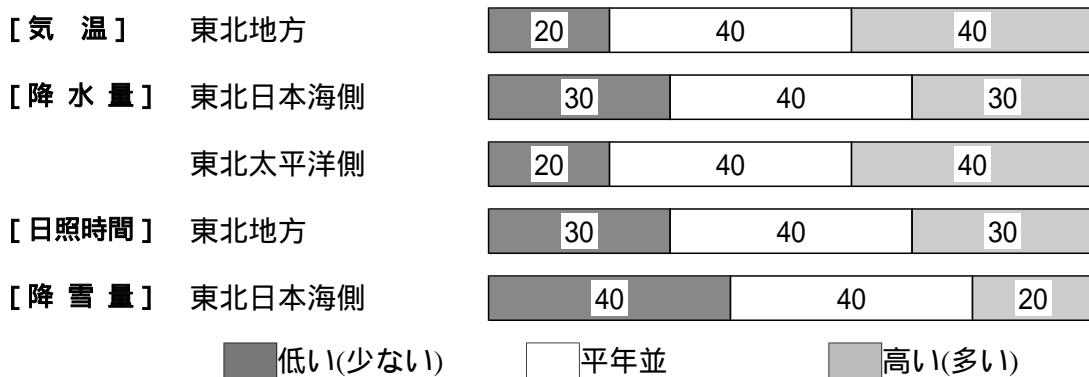
<予想される向こう1か月の天候>

冬型の気圧配置は平年に比べて弱いですが、気圧の谷や寒気の影響で、東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の降る日が多く、東北太平洋側では平年に比べて雪または雨の降る日が多いでしょう。

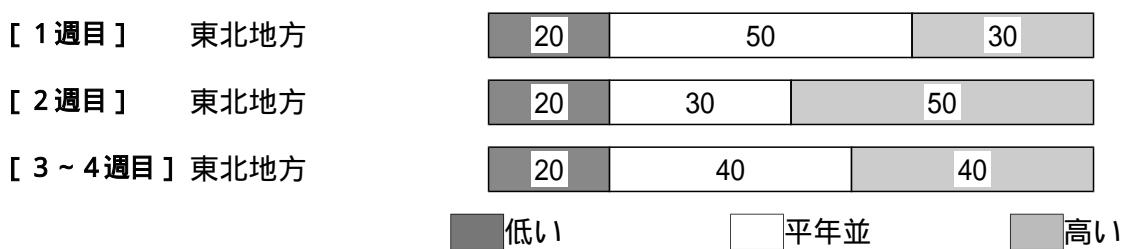
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並が高め、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北地方で平年並、東北日本海側の降雪量は平年並が少ないのでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は高め、3~4週目は平年並が高めの予報です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 2月11日(土) ~ 3月10日(金)
1週目 : 2月11日(土) ~ 2月17日(金)
2週目 : 2月18日(土) ~ 2月24日(金)
3~4週目 : 2月25日(土) ~ 3月10日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は2月17日
3か月予報：2月23日(木) 14時
暖候期予報：2月23日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	降雪量 (cm)	気温()		
					1週目	2週目	3~4週目
大船渡	1.5	59.0	143.5	28	0.8	1.3	2.0
新庄	-0.2	123.9	71.7	198	-1.0	-0.6	0.5
若松	0.5	62.4	106.4	128	-0.4	0.0	1.1
深浦	0.5	72.7	64.4	95	-0.3	0.1	1.1
青森	-0.3	93.2	89.6	162	-1.3	-0.7	0.4
むつ	-0.8	78.9	107.2	147	-1.7	-1.1	-0.2
八戸	-0.1	47.3	139.3	89	-1.0	-0.5	0.6
秋田	0.9	89.0	81.3	98	0.1	0.5	1.6
盛岡	-0.7	58.1	135.9	80	-1.6	-1.1	0.0
宮古	0.9	74.4	154.4	62	0.2	0.6	1.5
酒田	2.1	101.9	76.5	93	1.4	1.8	2.7
山形	0.6	63.9	111.1	122	-0.3	0.1	1.3
仙台	2.5	51.2	154.4	28	1.8	2.1	3.0
石巻	1.7	45.8	164.3	22	0.9	1.3	2.3
福島	2.6	53.3	150.1	56	1.8	2.2	3.2
白河	1.3	46.2	156.9	43	0.5	0.8	1.9
小名浜	4.4	65.4	170.8	0	3.7	4.0	4.9

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.6 ~ +0.6	81 ~ 111	97 ~ 104	74 ~ 118
東北日本海側	-0.6 ~ +0.5	92 ~ 108	91 ~ 106	88 ~ 121
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.6	67 ~ 120	98 ~ 104	64 ~ 118

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.9 ~ +1.0	-0.9 ~ +0.9	-0.5 ~ +0.5
東北日本海側	-0.9 ~ +1.0	-0.9 ~ +0.9	-0.6 ~ +0.5
東北太平洋側	-0.9 ~ +1.0	-0.9 ~ +0.9	-0.5 ~ +0.5

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年2月10日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(2月11日~3月10日) :

冬型の気圧配置は平年に比べて弱いですが、気圧の谷や寒気の影響で、東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の降る日が多く、東北太平洋側では平年に比べて雪または雨の降る日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(2月11日~2月17日) :

気圧の谷や寒気の影響で、東北日本海側は雪や曇りの日が多いでしょう。東北太平洋側は、期間の初めと中頃は雪や雨の降る日がありますが、その他の日は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(2月18日~2月24日) :

冬型の気圧配置は平年に比べて弱いですが、気圧の谷や寒気の影響で、東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の降る日が多く、東北太平洋側では平年に比べて雨または雪の降る日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(2月25日~3月10日) :

冬型の気圧配置は平年に比べて弱いですが、気圧の谷や寒気の影響で、東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の降る日が多く、東北太平洋側では平年に比べて雪または雨の降る日が多いでしょう。

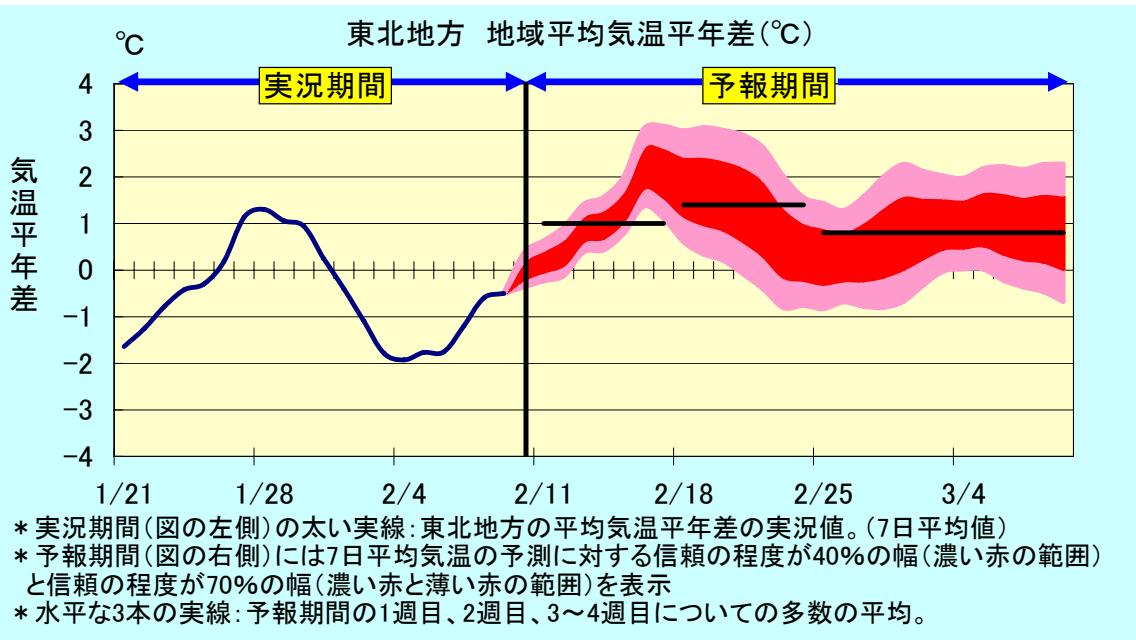
平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	8.1日	1.7日	1.6日	4.8日
東北太平洋側	17.6日	4.5日	4.2日	8.9日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「平年並」、2週目、3~4週目を「高い」と予測している。予報はその他の資料から3~4週目を「平年並」か「高い」とする。
なお、数値予報の信頼度は大きい。

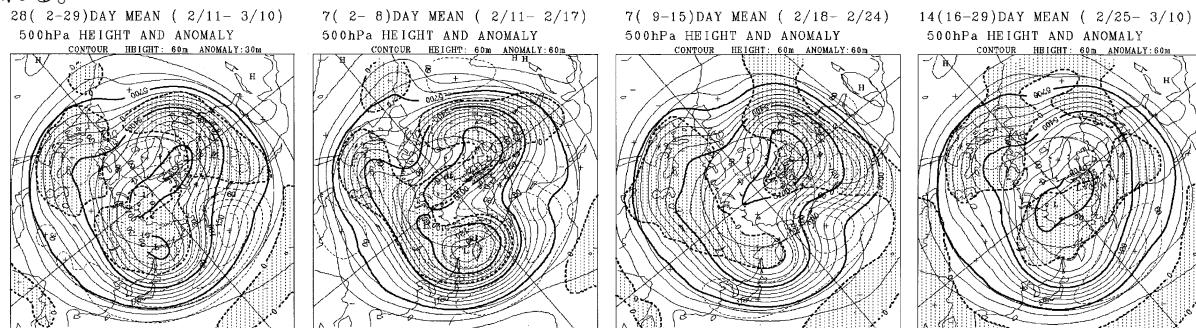


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本付近は極東中緯度帯からアラスカの南にのびる正偏差に覆われるが、オホーツク海の低圧部も明瞭。寒気の南下は日本付近では高緯度まで。

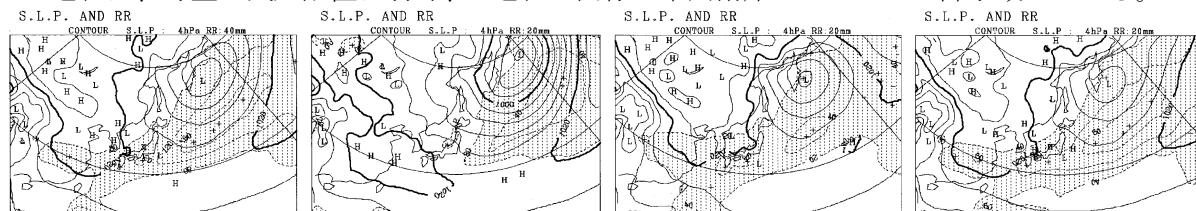
1週目は、カムチャツカ半島付近を中心を持つ強い負偏差が広く極東の高緯度を覆い、北海道にかかる。日本を含む中緯度以南は正偏差。2週目は、月平均とほぼ同様で、アラスカの南の正偏差が強くオホーツク海北部の低圧部は弱まる傾向。3~4週目は、極付近の低圧部からバイカル湖の東にかけて負偏差となるが、日本付近は日付変更線付近を中心とした中緯度の正偏差に覆われる。



地上気圧と降水量：

月平均では、大陸から日本付近への高気圧の張り出しあはやや弱く、カムチャツカ半島付近の低圧部も平年に比べ弱いため、冬型の気圧配置は弱い。

1週目は、大陸の高気圧が弱く、低気圧の中心はカムチャツカ半島の遙か東で冬型は弱い。2週目は、月平均とほぼ同様で、冬型の気圧配置は弱い。本州南岸にまとまった降水域がかかる。3~4週目は、冬型の気圧配置は弱く、2週目と同様に本州南岸にまとまった降水域がかかる。



4. 最近1週間（2月3日～2月9日）の天候の経過

期間の前半と終わりは冬型の気圧配置で、東北日本海側では期間を通して雪の日が多くた。また、東北太平洋側でも7~8日は低気圧の影響で雪が降った。特に7日は本州の南岸沿いを三陸沖に進んだ低気圧と日本海から三陸沖に進んだ低気圧のため、東北太平洋側を中心に各地で雪が降り、交通機関の運休・欠航や休校などの影響が出た。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北地方で多い。日照時間は東北地方でかなり少ない。

